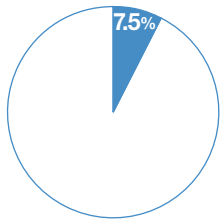


その他の事業

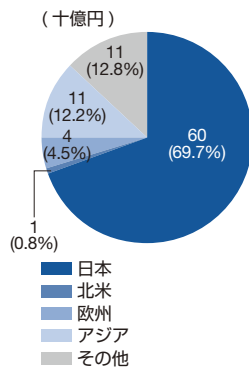
注
 需要の数値は当社調べです。

2009年度のその他の事業の売上高は、前年度比371億円(30.2%)減の859億円となり、全体の売上高の7.5%を占めました。営業利益は同55億円減の4億円の損失となりました。

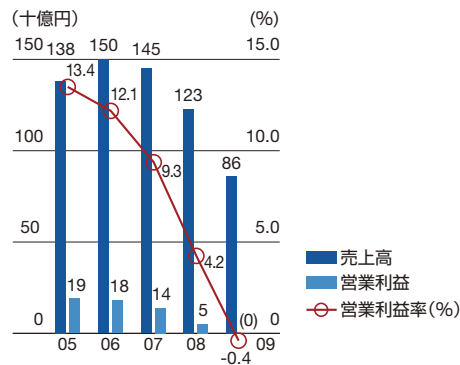
2009年度売上高比率



2009年度市場別売上高



業績



高性能小型超高速モジュラー機「YS24」

IM事業 — 回復から拡大へ向け加速

IM(インテリジェント・マシナリー)事業の売上高の約80%を占めるサーフェスマウンター(表面実装機)の2009年度の総需要は、下期にはアジア(日本を除く)を中心に、携帯電話や液晶TVに向けた設備投資の活性化により、回復の兆しが見えたものの、通年では前年度比半減となりました。こうした中、当社においては新世代のモジュ

ラー機である「YS」シリーズのラインナップ化により、下期に販売回復の兆しが見えてきたものの、通年では景気低迷による設備投資凍結の影響が大きく、販売台数は前年度比45.9%減の960台に、IM事業全体の売上高も51.5%減の151億円となりました。

サーフェスマウンターの需要縮小は2009年度を底に、設備投資の回復とともに順調な需要拡大が見込まれるため、2010年度の総需要は前年度比約30%増となる見通しです。当社は、「省スペース」、「低コスト」の市場トレンド

に対応し、よりコンパクトで生産性の高い小型超高速モジュラー機「YS24」および小型高速汎用モジュラー機「YS24X」による高生産性実装ラインの提案や、周辺装置としての各種検査機などニューモデルの投入、海外での販売網強化により、2010年度の販売台数は、29.2%増の1,240台を計画しています。

自動車エンジン事業 — 需要の大幅減少

当社は、二輪車で培ったエンジン技術を活用し、国内外の自動車メーカーへ高性能自動車エンジンを供給しています。また、走行時のより一層上質な乗り心地と操縦安定性を実現する自動車用サスペンション「リアス」と自動車用車体制振ダンパー「パフォーマンスダンパー」を国内の自動車メーカーを中心に販売しています。

2009年度は、景気低迷の影響により自動車メーカーからのエンジン発注量が大幅に減少し、売上高は前年度比38.4%減の241億円になりました。



4,800cc V10自動車エンジン

PAS事業 — 好調を維持

2009年度の電動アシスト自転車の総需要(国内)は、幼児2人同乗モデルの導入や、法改正の追風もあり、前年度比17.7%増の36.5万台になりました。こうした中、法改正対応モデルのバリエーションの拡充や積極的な試乗会の開催などプロモーションの強化により、2009年度の当社販売台数は前年度比18.2%増の16.2万台に、売上高は同21.2%増の120億円(ともにOEM供給分を含む)となりました。

2010年度の総需要は、環境・健康志向の高まりを受け高い比率で新規購入が続いていることや、拡大しつつある通勤需要などにより、前年度比9.6%増の40.0万台に



電動アシスト自転車「PAS Raffini(パス ラフィーニ)」

なる見込みです。当社は、引き続きユーザーニーズを先取りした製品改良に取り組むとともに、積極的なプロモーションを行い、2010年度の販売台数として、前年度比20.4%増の19.5万台を目指します。

その他の事業 — 継続する厳しい事業環境

当事業セグメントのその他の製品には、産業用無人ヘリコプターや各事業部門に供給される中間部品、健康食品成分としてのアスタキサンチンの製造・販売を行うライフサイエンス事業などがあります。これらの事業の2009年度の売上高は、引き続き需要が減少したため、前年度比19.1%減の347億円になりました。

その他の事業

PAS事業好調の背景

多様化するニーズに、最適な商品とサービスで応えます。

2008年12月に国内で施行された「電動アシスト自転車のアシスト比率に関する法令基準の改正^{注1}」を機に、当社は変速機のギアポジションごとに、より広い速度域で最適なアシスト力が供給できる「S.P.E.C.(スペック)^{注2}」機構を新たに開発しました。これにより、発進時から加速、巡航時まで全域で、スムーズかつパワフルで無駄のない走行が実現し、その搭載モデルを拡充させています。

また、2009年7月に国内で制定された「幼児二人同乗用自転車の安全基準」に対しても、各都道府県の公安委員会規則改正・施行タイミングに合わせて、同基準を満たした新モデルを導入しました。

このように、当社ではお客さまの多様化する用途やニーズに応える最適なモデル開発に取り組むとともに、製品の保守・点検を含むサービスの一貫化や、法人向けリース、レンタルサービスなど、お客さまのサポート体制の拡充にも注力しています。

注1

従来、時速15km未満の状態において、「人力対アシスト力」が最大「1:1以下」であったアシスト比率が、今回の法令基準の改正により時速10km未満の状態において「1:2以下」となりました。

注2

S.P.E.C.: Shift Position Electric Controlの略称。

PAS についてひとこと



最近は、カラーやスタイリングなど、デザイン性を重視するお客さまが増えています。そんな中、ヤマハブランドは、スタイリッシュでスポーティなモデルを選ぶお客さまに、高く評価されているように思います。

飯泉 正順さん(右)
電動自転車専門店「アシスト」社長(東京)

「PAS Brace(パス ブレース)」を選んだきっかけは、まず、見た目がカッコイイからです。スポーティな電動アシスト自転車があるなんて、全然知りませんでした。次に、パワフルなのにとっても自然なアシスト感覚が気に入りました。あとは、ヤマハ発動機が世界で初めての電動アシスト自転車メーカーであるという点で、その技術力や実績に安心を覚えたのが大きいですね。

瀬戸悠太さん
会社員(東京)